

		チェック項目	はい	どちらでもない ええ	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			・設備基準を満たしており、保育園と共同での広い園庭もある。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			・10人の利用者に対して、管理者と児発管以外の直接処遇職員を4人配置している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切にされているか		○		・スロープ、身障者用トイレを設置している。 ・階段、段差をなくすだけでなく、必要に応じて段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげている。 ・生活空間について、適宜パーテーションを使用するなど集中のしやすさへの配慮をしている。 ・自分の物の置き場所が分かりやすいよう、視覚的手掛かり(本人のマーク)を使うこともある。 ・子どもが「自分で」やりやすいように、水道の蛇口を交換するなどの対策をとっている。 今後、身体に麻痺があっても、自分でトイレに座れるよう、トイレの改善が必要である。 今後、一人一人に合わせた生活のしやすさのための工夫を検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			・生活空間に、季節を感じられる飾りつけを意識して行っている。 ・活動内容によって、活動スペースを仕切り、個室を作るなどして活動をしている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		・毎月一回の事業所内会議、毎月2回の法人内会議にて、必要に応じて業務改善についての話し合いを行っている。 ・職員一人一人が意識できるように働きかけていく必要がある。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			・年に1回自己評価を行い、結果について職員間で話し合い、改善策を導き出している。その結果をホームページで公開している。 ・自己評価以外にも、文章で記入していただくアンケートも行き、保護者の意向を知る手掛かりとしている。 ・保護者の方が意見を出しやすい工夫がこれからも必要である。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			・昨年度、外部評価を実施。評価結果として指導を受けた点については、改善しつつある。今年度は行っていない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○		・外部講師を招き、法人内研修を企画、実施している。また、研修に関する情報提供により研修機会の確保を行っている。今年度については、コロナ禍のため研修機会が減り、研修参加が難しかった。後半になり、ZOOMによる研修に参加できるようになった。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			・年度初めにアセスメントを行い、保護者から最新の情報を聞き取りするとともに、利用者や保護者の希望等を共有し課題を分析している。また6か月に1度はモニタリングを行い、保護者と課題を共有した上で児童発達支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			・一人一人の発達段階を把握できるよう、事業所内で統一したアセスメントツールを活用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			・児童発達支援ガイドラインに示してある項目を確認しながら、支援目標や支援内容を設定している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			・定期的に職員間でモニタリングを行い、子どもの発達に応じた計画になっているのか振り返りを行いながら、支援計画に沿った支援が行えるよう心掛けている。

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			・担当者の発案を基に、職員間で情報を共有し、活動プログラムの内容を検討し進めている。 ・統合保育をしている保育園職員とも、交流活動について、意見を出し合い計画立案をしている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			・季節に合わせた行事や自然体験などの活動を取り入れている。利用者それぞれの発達に合わせた参加の仕方を工夫しながら、年間を通して様々な活動を行うことができるようにしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	○			・恵の実保育園との統合保育を活かし、集団的保育を行う所と、個別支援が必要なところと、両方の視点からそれぞれの発達に応じて支援計画を作成している。 ・どちらかに偏りすぎないよう、見直しをしながら進めている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			・大まかな活動内容や支援の内容、役割分担等は、支援が始まる前までに打ち合わせをしている。しかし、その日の子どもたちの要望などにより活動内容が変わることもあり、その場で役割分担を変えることもある。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		・各担当者は、その日の支援の振り返りを毎日記録に残している。その日のうちに共有すべきことは、職員間で共有するようにしているが、職員の勤務時間も違うため、細かな支援の振り返りの共有までには至らないこともある。後日、時間を作って共有をしている。 ・その日のうちに共有しておいた方がいい内容については、メール等を使い共有をすることもある。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○		・各担当者は、その日の支援の内容や子どもの様子を毎日記録に残している。記録をもとに、支援の振り返りを行ったり、子どもの発達を検証する材料としたい。しかし、職員全員が記録を活かしていないところもあり、今後スキルアップが必要である。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			・半期に一度はモニタリングを行っている。ケース検討会議を開き、個々の支援計画の見直しを行っている。
関係機関や	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			・主に児童発達支援管理責任者が出席し、情報の共有を行っている。必要に応じて、利用者に関わるその他の職員も参加できるようにしていきたいと思う。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか				・対象となる児童がいない。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか		○		・相談支援専門員の方に相談をしながら連携を取りはじめたところである。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			○	・重症心身障がいのある子どもは、母子通園で利用しているため、保護者を通して医療関係の情報を得ている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか				・今年度については、対象になる児童がいなかった。

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
保護者との連携	26 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			・小学校や特別支援学校の先生が事業所での子どもの様子を見学してくださる。その際に、事業所での様子や支援内容等の情報を伝えている。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		・月に一度、豊川市内の児童発達支援事業所が集まる共有会議に参加し、連携を図るとともに研修の場ともなっている。しかし、今年度については、コロナ禍のため会議の開催が少なかった。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○			・同法人内にある保育園と統合保育を行っており、日常的に障がいのない子どもとの活動が行われている。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか			○	・豊川市内の児童発達支援事業所が集まる共有会議の代表者が子ども部会に参加をしている。会議の中で子ども部会の報告を共有している。今年度については、会議の開催が少なく、情報共有もほとんどできなかった。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			・日々の送迎の際に、一日の様子を報告している。また、保護者の要望に応じてやりとりノートを使い、書面での情報共有をしたり、また定期的に面談を行い共通理解を図っている。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか		○		・必要に応じて母子通園を行っている。保育者の子どもへの関わり方を見て学び、また保護者が実際に関わる姿を見せていただく中で、関わり方のコツなどを伝えている。母子通園の後には振り返りを行い、家庭での子育てに活かせるようにしている。しかし、母子通園の回数や、内容等について、保護者の様子も踏まえながら、今後も取り組み方の工夫が必要である。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			・利用開始時、また継続利用の方は1年に一度説明をしている。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			・児童発達支援ガイドラインに基づき支援計画を作成している。支援計画については、定期的な面談の際に説明を行い、保護者の同意を得ている。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			・送迎時など、日頃から保護者と話をする機会を意識的に持ち、保護者の様子の変化に気づいていけるようにしている。担当職員では助言が難しい場合には、担当職員が上長に相談し、できるだけ迅速に、適切な助言ができるよう職員間の連携を作っている。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			・定期的に茶話会を開いたり、行事などの活動に保護者の参加を促し、保護者同士の交流の場としているが、今年度については機会が少なかった。 ・茶話会などが苦手な保護者に対する支援について、工夫を考えて行く必要がある。
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			・契約時に、相談・苦情受付窓口や担当者、第三者委員などの設置を伝えている。相談や申し入れがあった場合、できるだけ速やかに職員間で話し合いの場を持ち、改善につなげるよう心掛けている。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			・月一回のやまぼとだよりを発行し、行事予定などを伝えている。普段とは違う活動については、随時お便りを作成し、活動のねらいや活動概要などを伝えるようにしている。
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			・書類は鍵のかかる書類棚で管理している。職員は、年度初めに守秘義務や書類の管理の仕方について周知をしている。

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの意思疎通については、その子の発達に応じて伝え方の工夫をしたり、視覚的な手立てを利用するなど配慮をしている。 ・保護者への情報伝達については、口頭だけでなく書面により伝えたり、必要に応じて個別に丁寧な説明をするなどしている。 ・職員からの情報伝達が遅いことがあるため、改善が必要である。
	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、法人として夏祭りを行い、地域住民の方を招待しているが、今年度はコロナ禍のため、行事自体の実施が難しかった。
非常時等の対応	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか			○	<ul style="list-style-type: none"> ・各マニュアルを策定はしているが、内容に未だ不十分なところがあり、実働に合わせて見直し、検討が必要である。また、マニュアルについて保護者や職員への周知が徹底されていないところがある。保護者、職員それぞれに、改めて周知する機会を設ける。
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、火災、地震、水害、竜巻を想定した避難訓練を実施している。
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・契約時、またその後は1年に一度、子どもの疾病や服薬状況、てんかん発作の有無、アレルギーの有無など最新の情報を確認している。
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか				<ul style="list-style-type: none"> ・対象児なし。
	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットがあった際は、すぐに関係職員、上長で検証と再発防止について話し合う対策会議を行っている。また、その内容を記録し、職員間でも共有するようにしている。職員会議等で、再度情報共有する場を持ち、再発防止に努めている。 ・ヒヤリハットの件数が少ない。大きな事故にならないよう、ちょっとしたヒヤリハットであっても、共有していく事の重要性を職員間で確認し合っている。
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		○		<ul style="list-style-type: none"> ・管理者より虐待防止に関する情報提供を行っている。今後は、管理者以外の職員が虐待防止の研修に参加できるよう計画をしていきたい。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束になりうる可能性がある場合は、保護者への確認や説明を行い、支援計画に盛り込むようにしている。